

謝辞

比良の山々に残る雪も次第に解け、琵琶湖に映る光が輝きを増すこの良き日、私たちはびわこ成蹊スポーツ大学を卒業し、新たな一步を踏み出そうとしています。

私たちの旅立ちの日にあたり、本日はこのような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、学長をはじめ教職員の皆様方に、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

四年前の春、マスク姿で迎えた入学式の光景を今でも鮮明に覚えています。先行きが見えない状況の中で始まった大学生活でしたが、入学式では「本気で取り組むことの大切さ」という励ましの言葉をいただきました。

私たちはその言葉を胸に、この四年間を過ごしてきました。多くの方々に支えられながら学びを積み重ねることができ、この四年間で得た経験や人との出会いは、かけがえのないものとなりました。

大学生活の中で、私たちはスポーツが持つ大きな力を実感してきました。努力を積み重ねることの大切さ、仲間と支え合いながら目標に向かうことの意義、そして自分の可能性を信じて挑戦することの大切さです。これらの経験は、これから社会へと歩み出す私たちにとって、大きな財産となるものだと感じています。

私は、保健体育科の教員になるという目標を持って本学に入学しました。授業での学びはもちろん、教員採用試験に向けた勉強にも懸命に取り組んできました。

教員採用試験に向けた日々は決して簡単なものではなく、進路に迷い、自信を失いかけたこともありました。しかしそのような時でも、仲間と切磋琢磨しながら励まし合い、共に成長することができたことは、私にとって大きな支えとなりました。また、先生方が常

に私たちに寄り添い、温かく導いてくださったことは、今も深く心に残っています。

こうした数々の学びの中でも、特に大きな力となったのがゼミでの学びです。教員としての立ち振る舞いや授業構成の考え方、教員採用試験に向けた対策など、実践的な学びを丁寧にご指導いただきました。コースの先生方をはじめ多くの先生方が、私たちの問いに丁寧に応え、さまざまな場面で力をお貸しくくださったことに、深く御礼申し上げます。

そのようなご助力のもとで学びを深めることができ、私は来春から中学校の保健体育科の教員として教壇に立つこととなりました。これまでいただいた多くの支えを胸に、これからは支える立場へと歩んでいきたいと思えます。

しかし、教員になることがゴールではありません。教員とは、教える立場でありながら、同時に学び続ける存在でもあると私は思っています。そしてその姿勢は、教員に限らず、一人の人間として生きていくうえでも大切なことです。私たち卒業生一同、それぞれの道において学び続ける姿勢を大切にしながら、社会の中で成長し続けていきます。

最後になりますが、学生生活において未熟な私たちを多岐にわたってご指導くださいました先生方、また様々な場面で学校生活を支えてくださった職員の皆様、そして大学卒業を迎えた今日まで支えてくれた家族に対し、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

そして、びわこ成蹊スポーツ大学の一層の発展をお祈りするとともに、諸先生方の益々のご健康とご活躍を祈念いたしまして、卒業生代表の謝辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

2026年3月19日
スポーツ学部 卒業生代表
橋口 優樹